



# 高田本山専修寺境内施設紹介

## ◆御影堂

専修寺の山門をくぐると正面に見えるのが、境内でも一番大きな重要文化財に指定されている御影堂である。

寛文6年(1666)に建立された御堂には、宗祖親鸞聖人の木像を中央に、歴代人画像を両脇に安置している。

739畳敷という全国に現存する木造建築の中でも5番目に大きな御堂は、間口42・72m、奥行き33・50mの大伽藍で、一重(単層)入母屋造、向拝三間付本瓦葺となっている。

外観は純和様の建築により、



簡素で落ち着いた装飾が施されているが、内部は華やかな装飾が施されている。

平成12年4月から始まった「平成大修理」も平成19年(2007)12月20日に完了。毎年1月9日(16日)に行われる真宗最大の法会「報恩講」には多くの参詣者が訪れている。

## ◆如来堂



御影堂の西に配置された如来堂は、「証拠の如来」といわれる阿彌陀如来立像を本尊とし、中央に安置、両脇に浄土七高僧像、聖徳太子像と九字十字の名号を敬置したお堂である。重要文化財。

財。

教義上、如来堂が専修寺の本堂となり、間口25・66m、奥行き26・62m、一重裳階付入母屋造向拝三間付本瓦葺となっている。

外観は2階建てのようだが、2階はなく、下層の屋根は裳階と呼ばれ3種の庇となっている。禪宗様(唐様)という建築技法により作られており、精巧で華麗な建築となっている。寛延元年(1748)に建築され、棟梁は近江八幡の高木但馬、脇棟梁は白塚の長谷川十右衛門と浜田の村田喜太郎と伝えられている。

昭和58年(1983)7年半かけ大修理工事を実施、平成2年(1990)3月に修繕工事が完成した。

## ◆山門

御影堂の正面に建つ山門は、2階建ての門になっており、専修寺伽藍の総門にあたる。瓦に宝永元年(1704)の銘があったことから、その頃に再建が完了したとされている。入母屋造、本瓦葺、背面三間庇付。県指定文化財。

間口20m、奥行き9m、高さ



15・5m。正面の柱間は5間、なかの3間に扉を付けて入口とした五間三戸二階二重門の形式は、山門では最高の格式とされ、2階内部には釈迦三尊像を安置してある。

挿肘木(さしひじき)など天然様の建築技法が使用され、すっきりとした印象の門建築となっている。山門前には一身田寺内町が形成され、高田本山専修寺を中心に発展してきた町の姿がうかがえる。

山門の傷みや傾きが激しかったため、平成5年より3年がかりで大規模な修理が行われた。

## ◆唐門

如来堂の正面にある唐門は、屋根は檜皮葺で、正面と背面の

軒に大きな唐破風があることから唐門と呼ばれ、親しまれている。文化6年(1809)の木挽きに始まり、文政10年(1827)の地築き、天保15年(1844)に上棟。材料は全て良質の樺を使い、扉中央の大きな菊花紋を始め、親子の獅子などの彫刻が施され、華麗で装飾も見事な四脚門となっている。

棟梁の高木光規は如来堂を建てた但馬の孫にあたる。

平成22年11月末日まで、専修寺唐門保存修理工事中。

県指定有形文化財(建造物)。



## ◆太鼓門

専修寺東の門である太鼓門は、最上階内部に「時の太鼓」と

呼ばれた直径1mほどの大きな太鼓が吊り下げられ、その昔、太鼓を打ち鳴らして人々に時を知らせていたという。

平成22年末まで修復中。



## ◆御廟(ごびょう)



如来堂の西側、石橋を渡って堀の間を抜けると、真宗の開祖親鸞聖人の御廟がある。

唐門、拝堂、石橋と続きその奥に親鸞聖人の墓とそれを取り囲むように専修寺歴代住職のお墓がある。

親鸞聖人のお墓は寛文11年

(1671)専修寺に伝えられていた聖人の骨5粒を埋めて造られ、御廟は寛文12年(1672)に造営されたそうである。

## ◆御廟唐門(ごびょうからもん)

御廟唐門は、文久元年(1861)に建築された一間一戸平唐門で、屋根は檜皮葺、長押や柱の間まで美しい彫刻が施されている。

御廟唐門の後ろには拝堂があり、石橋の向こうには、寛文12年(1672)に造営されたという御廟、親鸞聖人のお墓と専修寺歴代住職のお墓がある。

県有形文化財(建造物)。



## ◆鐘楼

1間4方で入母屋造の屋根のせた一般的な鐘楼となっている。4隅の柱は四方転びという

形式で、その間に八角形の柱が2本ずつ入り、肘木の先は大仏様風となっている。

専修寺第15世亮朝上人の夫人高松院は亮朝の7回忌に、上人の冥福を祈って、慶安5年(1652)辻越後守重種と一族の氏種に铸造させた。

平成5年からの大修理で、棟瓦から正徳3年(1713)の刻銘が発見されたため、その頃再建されたと考えられる。



## ◆安楽庵

御影堂、如来堂の背後に広がる約3250坪もある庭園「雲幽園(うんゆうえん)」は、県指定名勝となっている。

石組をほとんど使わず自然の美を生かした庭園は、蓮池を主体とした自然そのものの庭といえる。広い池を配した池泉回遊



式の庭園の中にある茶室「安楽庵」は、茅葺屋根のしょうしゃなつくりで、江戸時代初期の名席といわれている。

茶席は本席と略席の2棟で、本席を安楽庵と称する。主人と客席との間に白い太鼓張りの襖が入るなど珍しい特徴がある。

千利休の長男道安と織田信長の弟有楽齋という高名な2人の茶人の合作ともいわれ、お、「安楽庵」の名も二人の名前から取ったという言い伝えもあるという。

## ◆宝物館

専修寺が誇る親鸞聖人真蹟の数々を収蔵する宝庫で、昭和37年(1962)の親鸞聖人御誕生700年法要を記念して建造された。

国宝三帖和讃を始め、親鸞聖

人の直筆や聖人ゆかりの法宝物など多くの国宝、重要文化財を保管している。

展覧室と収蔵室の2棟があり、収蔵室は厳重な防湿構造となっている。



## 問合わせ

宝物館・庭園は事前に予約必要。雲幽園は雨天等の場合は、案内できませんのでご了承下さい。

案内希望の方は事前に予約必要。時間は午前9時〜午後4時。行事開催などでお断りする場合があります。

料金―志納。

・真宗高田派専修寺進納所

〒514-0114

津市一身田町2819番地

電話 059(236)5701  
FAX 059(236)5702

